

2019 年度 A O 選抜 文学部 地域研究学域
「フィールドワーク方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
地域研究学域	21	12	9

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

第一次選考では、調査書に記載された科目の履修状況・成績・評定平均値などをもとに、高校でどのような学習を行ってきたかを確認しました。また、エントリーシートに書かれた志望理由、入学後に学びたいと考えている分野やテーマなどを確認しました。具体的にどのような希望を学生生活で実現しようと考えているのか、また将来の自己像をどのように描いているのかを把握しました。課題レポートに関しては、写真と地図ならびに説明文が、地理的な説明から有機的に結びついているか、テーマ自体が明確か、読み手に何を伝えようとしているかなどに関して評価しました。

(2) 回答状況

エントリーシートには当学域への志望動機が書かれていますが、学問との関連性が不明確なものが多く見受けられました。また、文章表現力が不足しているものも散見されました。課題レポートには、地図そのものの知識と利用法がまったく理解できていないもの、写真のテーマが不明瞭なものが目立っていました。地域の紹介だけに留まらず、地図と写真とを活用して、地域の様子を地理的に説明するよう努めてください。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

フィールドとされた地域の地図を正確に読む力があるかどうか、第1のポイントです。過去の地図との比較から地域の変化を読み取る能力を確認します。第2に実際にその場所に行き、自らの目で観察し、その地域の全体的な特徴と構成を把握したうえで、各部分の相互関係を理解し、地域の変化過程を読みとることができるかどうかポイントでした。第3に、収集された事実をもとに、読み手が理解できる文章だけでなく、表やグラフが作成できたかが評価されました。現地での教員の説明も地域の変化を知るヒントになりました。それをレポートに活用できているかどうか、第4のポイントです。

(2) 解答状況

インドアワークでは、まだ見ていない地域の状況について、地図から捉えることができていなかったようです。特に新旧の地図から地域の変化を理解することができていませんでした。フィールドワークでも、ささいなことに気を取られてしまい、テ

マとは全く関係のないものに時間をかけた例も見受けられました。レポート作成においては、読図やフィールドワークの成果をうまくグラフや表、地図に表現することができない例や、文章でポイントを明確にして表現できない例もありました。過去の地図と、フィールドワークから現在の様子との変化を把握することが望まれます。

(3) 試験（面接）内容

地域研究学域を志望する動機、入学後の学習・研究の計画、また研究において同級生をリードできる資質や意気込みについて、自身で説明するよう求めました。また、読図やフィールドワーク、レポート作成について、どのように取り組んだのかについて問いました。

(4) 出題（面接）の意図

地域研究学域での研究について、地理的素養や考えのもとで具体的に思い描けているか、また入学後の研究を率先していく独自性や意気込みをもち、学生の立場から学域での学習レベルを引き上げていく可能性があるか、そして第二次選考（インドワーク・フィールドワーク・レポート作成）に対し地理的センス、地理的なものの見方をもって取り組んでいたか、という点をポイントとしながら質問しました。また、質問に対して自分の言葉で明確に答えられているか、といった点も重視しました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

課題を十分に踏まえたうえで、読図とフィールドワークを行うことが重要です。事実を正確にとらえたうえで、これまでに習得した知識を活用し、全体と部分をバランスよくとらえて、地域性を把握できるように日ごろから勉強することが重要だと思います。常に読み手を想定して、表現できる力量が必要とされます。

入学後、地域研究を行なうにあたって、率先して同級生をリードしていく意気込みのある熱心な受験生を期待しています。

以上